

# 平成29年度自転車規格標準化事業 JIS / ISO関係実施報告書

(一財)自転車産業振興協会  
技術研究所

当協会は、自転車JIS原案作成団体及び「ISO / TC 149 (自転車) / SC 1」の幹事国かつ国内審議団体として、これまで多くの自転車規格(JIS・ISO)の改正・審議を実施しているところ。

平成29年度においては、自転車規格標準化事業としてJIS及びISOに係る諸案件を検討すべく、以下のとおり委員会及び各種作業部会等を設置・開催した。

## ・ JIS / ISO規格研究委員会

JIS改正案件の審議には広く公平性を保つため、学識経験者、消費者(使用者)、製造者、中立者で構成する「JIS / ISO規格研究委員会」を設置・開催して、JIS / ISO整合化に係る新規・改正・廃止案件(18件)並びにISO関連の諸案件の報告及び平成30年度事業計画について審議・承認を実施した。

### 1. 会議等の開催

#### (1) JIS / ISO規格研究委員会

日 時：平成30年3月16日

場 所：新橋・田中田村町ビル8A会議室

議 題：平成29年度JIS改正案件及びISO関連案件の審議・承認

## ・ JIS / ISO調査分科会

業界有識者で構成する「JIS / ISO調査分科会」を設置・開催して、自転車JIS及びISOに係る網羅的な対応方針を検討するとともに、傘下の各作業部会が実施した各種検討案件の具体的内容について審議を実施した。

### 1. 会議等の開催

#### (1) 第1回JIS / ISO調査分科会

日 時：平成29年6月5日

場 所：新橋・田中田村町ビル8B会議室

議 題：平成29年度JIS / ISO事業計画等の審議

#### (2) 第2回JIS / ISO調査分科会

日 時：平成30年3月15日

場 所：新橋・田中田村町ビル8A会議室

議 題：平成29年度事業進捗報告及び30年度事業方針検討ほか

## ・ JIS / ISO整合化作業部会

平成25年にスタートした「JIS/ISO整合化作業」については、議論を積み重ねてきた結果、概ね全体像が取りまとまったことから、最終的な確認作業を行うべく、「JIS/ISO整合化作業部会」を設置・開催し、改正案件（8件）、新規案件（8件）、廃止案件（2件）の具体的内容等のブラッシュアップを実施した。

#### 1. 会議等の開催

##### (1) 第1回JIS/ISO整合化作業部会

日 時：平成29年4月14日

場 所：新橋・田中田村町ビル8A会議室

議 題：JIS/ISO整合化に係る具体的内容検討

##### (2) 第2回JIS/ISO整合化作業部会

日 時：平成29年5月15日

場 所：新橋・田中田村町ビル8B会議室

議 題：JIS/ISO整合化に係る個別案件の検討

##### (3) 第3回JIS/ISO整合化作業部会

日 時：平成29年9月15日

場 所：新橋・田中田村町ビル5D会議室

議 題：JIS/ISO整合化に係る個別案件の具体的検討

##### (4) 第4回JIS/ISO整合化作業部会

日 時：平成29年10月20日

場 所：新橋・田中田村町ビル8A会議室

議 題：JIS/ISO整合化に係る互換性の検討

##### (5) 第5回JIS/ISO整合化作業部会

日 時：平成29年12月25日

場 所：新橋・田中田村町ビル8A会議室

議 題：JIS/ISO整合化に係る業界パブコメ対応

#### ・電アシJIS改正作業部会

現在、「ISO/TC149/SC1/WG15」において、日本が主導的立場で電動アシスト自転車のISO化を積極的に推進しているが、その議論の過程で日本のアシスト比率測定方法を規定している「型式認定基準」の一部内容に曖昧な部分が判明したことから、その解釈・取り扱いについて検討すべく意見交換会等を経て、自転車業界の考え方を取りまとめ、関係機関に申し入れを行った結果、平成29年10月31日付をもって「型式認定基準」が改正されたことを受け、同基準を引用しているJIS D9115（電動アシスト自転車）を急遽、改正する必要が生じたことから「電アシ改正作業部会」を設置、開催した。

#### 1. 会議等の開催

##### (1) アシスト比率測定方法に係るメーカー意見交換会（自主参加）

日 時：平成29年6月2日

場 所：新橋・田中田村町ビル 8 A 会議室

議 題：アシスト比率測定方法の現状に係る意見交換

( 2 ) アシスト比率測定方法に係る関係機関意見交換会

日 時：平成 2 9 年 7 月 1 4 日

場 所：新橋・田中田村町ビル 8 A 会議室

議 題：アシスト比率測定方法の現状等々の再確認

( 3 ) 電アシ J I S 改正作業部会

日 時：平成 2 9 年 1 1 月 1 6 日

場 所：新橋・田中田村町ビル 8 A 会議室

議 題：D 9 1 1 5 改正に係る具体的検討

・ W G 1 3 / W G 1 4 対応国内作業部会

I S O 4 2 1 0 ( 自転車 の 安全 要求 事項 ) 及 び I S O 8 0 9 8 ( 幼 児 用 自 転 車 ) の 継 続 的 検 討 案 件 を 審 議 す る 「 I S O / T C 1 4 9 / S C 1 / W G 1 3 」 並 び に 、 日 本 から 新 規 提 案 し 、 C V ( コ ン ビ ナ ー ) 及 び P L ( プ ロ ジ ェ ク ト リ ー ダ ー ) を 引 き 受 け て 主 導 的 立 場 で I S O 8 0 9 0 ( 自 転 車 用 語 ) の ド ラ フ ト 策 定 を 検 討 す る 、 「 I S O / T C 1 4 9 / S C 1 / W G 1 4 」 に 対 す る 国 内 対 応 体 制 と し て 「 W G 1 3 / W G 1 4 対 応 国 内 作 業 部 会 」 を 設 置 す る と と も に 、 国 内 の 部 品 名 称 の 取 り ま と め を 行 う べ く 、 「 W G 1 4 用 語 分 科 会 」 を 設 置 、 開 催 し た 。

1 . 会 議 等 の 開 催

( 1 ) 第 1 回 W G 1 3 / W G 1 4 対 応 国 内 作 業 部 会

日 時：平成 2 9 年 6 月 5 日

場 所：新橋・田中田村町ビル 8 A 会議室

議 題：平成 2 9 年 度 W G 1 3 / W G 1 4 事 業 内 容 検 討

( 2 ) 第 2 回 W G 1 3 / W G 1 4 対 応 国 内 作 業 部 会

日 時：平成 2 9 年 8 月 2 3 日

場 所：新橋・田中田村町ビル 8 A 会議室

議 題：ア ヴ ェ イ ロ 国 際 会 議 の 報 告 及 び 今 後 の 対 応 方 針 検 討

( 3 ) 第 1 回 W G 1 4 用 語 分 科 会

日 時：平成 2 9 年 1 0 月 1 2 日 ・ 1 3 日

場 所：新橋・田中田村町ビル 5 D 会議室

議 題：自 転 車 部 品 名 称 の 国 内 意 見 の 取 り ま と め

( 4 ) 第 2 回 W G 1 4 用 語 分 科 会

日 時：平成 2 9 年 1 1 月 1 5 日

場 所：新橋・田中田村町ビル 8 A 会議室

議 題：自 転 車 部 品 名 称 の 国 内 意 見 の 取 り ま と め

( 5 ) 第 3 回 W G 1 4 用 語 分 科 会

日 時：平成 2 9 年 1 2 月 2 1 日

場 所：技術研究所

議 題：自転車部品名称の国内意見の取りまとめ

( 6 ) 第 3 回 W G 1 3 / W G 1 4 対 応 国 内 作 業 部 会

日 時：平成 3 0 年 3 月 1 5 日

場 所：新橋・田中田村町ビル 8 A 会議室

議 題：2 9 年 度 進 捗 状 況 報 告 及 び ア メ リ カ 国 際 会 議 対 応 方 針 検 討

. W G 1 5 対 応 国 内 作 業 部 会

日本が電動アシスト自転車の I S O 化について新規提案し、C V ( コンビナー ) 及び P L ( プロジェクリーダー ) を引き受けて主導的立場でドラフト策定作業を実施している「 I S O / T C 1 4 9 / S C 1 / W G 1 5 」の国内対応体制として「 W G 1 5 対 応 国 内 作 業 部 会 」を 設 置 す る と と も に 、 個 別 に 具 体 的 ド ラ フ ト 案 を 検 討 す る 「 電 気 分 科 会 」 , 「 機 械 分 科 会 」 を 設 置 ・ 開 催 し た 。

1 . 会 議 等 の 開 催

( 1 ) 第 1 回 W G 1 5 電 気 分 科 会

日 時：平成 2 9 年 4 月 1 8 日

場 所：新橋・田中田村町ビル 8 A 会議室

議 題：アヴェイロ国際会議に係る電氣的対応方針検討

( 2 ) 第 1 回 W G 1 5 対 応 国 内 作 業 部 会

日 時：平成 2 9 年 4 月 2 6 日

場 所：アクトシティ浜松・コンgresセンター 3 2 会議室

議 題：アヴェイロ国際会議プレゼン資料等の確認

( 3 ) 第 2 回 W G 1 5 電 気 分 科 会

日 時：平成 2 9 年 6 月 8 日

場 所：ボッシュ(株) 8 0 7 会議室

議 題：アヴェイロ国際会議における電氣的コメントの検討

( 4 ) 第 2 回 W G 1 5 対 応 国 内 作 業 部 会

日 時：平成 2 9 年 6 月 1 4 日 ・ 1 5 日

場 所：新橋・田中田村町ビル 8 A 会議室

議 題：アヴェイロ国際会議における各国コメントの検討ほか

( 5 ) 第 3 回 W G 1 5 対 応 国 内 作 業 部 会

日 時：平成 2 9 年 6 月 3 0 日

場 所：新橋・田中田村町ビル 8 A 会議室

議 題：アヴェイロ国際会議報告及び今後の対応方針審議

( 6 ) 第 1 回 W G 1 5 機 械 分 科 会

日 時：平成 2 9 年 8 月 9 日

場 所：技術研究所

議 題：機械系コメントに係る具体的検討

- ( 7 ) 第 3 回 W G 1 5 電 気 分 科 会
  - 日 時 : 平 成 2 9 年 9 月 1 5 日
  - 場 所 : 新 橋 ・ 田 中 田 村 町 ビ ル 8 A 会 議 室
  - 議 題 : 電 気 系 ド ラ フ ト 策 定 に 係 る 具 体 的 検 討
- ( 8 ) 第 4 回 W G 1 5 電 気 分 科 会
  - 日 時 : 平 成 2 9 年 1 0 月 1 1 日
  - 場 所 : 新 橋 ・ 田 中 田 村 町 ビ ル 8 C 会 議 室
  - 議 題 : 電 気 系 ド ラ フ ト 策 定 に 係 る 具 体 的 検 討
- ( 9 ) 第 2 回 W G 1 5 機 械 分 科 会
  - 日 時 : 平 成 2 9 年 1 1 月 2 0 日
  - 場 所 : 技 術 研 究 所
  - 議 題 : 機 械 系 コ メ ン ト の 対 応 検 討
- ( 10 ) 第 5 回 W G 1 5 電 気 分 科 会
  - 日 時 : 平 成 2 9 年 1 1 月 2 1 日
  - 場 所 : 技 術 研 究 所
  - 議 題 : 電 気 系 ド ラ フ ト 日 本 最 終 案 の 検 討
- ( 11 ) 第 4 回 W G 1 5 対 応 国 内 作 業 部 会
  - 日 時 : 平 成 2 9 年 1 2 月 1 4 日 ・ 1 5 日
  - 場 所 : ア ク ト シ テ ィ 浜 松 ・ 6 1 研 修 交 流 室
  - 議 題 : 浜 松 国 際 会 議 対 応 方 針 等 の 検 討
- ( 12 ) 第 6 回 W G 1 5 電 気 分 科 会
  - 日 時 : 平 成 2 9 年 1 2 月 1 4 日
  - 場 所 : ア ク ト シ テ ィ 浜 松 ・ 6 1 研 修 交 流 室
  - 議 題 : 電 気 的 コ メ ン ト 対 応 検 討
- ( 13 ) 第 5 回 W G 1 5 対 応 国 内 作 業 部 会
  - 日 時 : 平 成 3 0 年 1 月 2 4 日 ・ 2 5 日
  - 場 所 : 新 橋 ・ 田 中 田 村 町 ビ ル 8 A 会 議 室
  - 議 題 : 浜 松 国 際 会 議 に 向 け て の 戦 略 検 討
- ( 14 ) 第 7 回 W G 1 5 電 気 分 科 会
  - 日 時 : 平 成 3 0 年 1 月 1 8 日
  - 場 所 : 技 術 研 究 所
  - 議 題 : 電 気 系 コ メ ン ト の 最 終 確 認
- ( 15 ) 第 6 回 W G 1 5 対 応 国 内 作 業 部 会
  - 日 時 : 平 成 3 0 年 2 月 2 3 日
  - 場 所 : 新 橋 ・ 田 中 田 村 町 ビ ル 8 A 会 議 室
  - 議 題 : 浜 松 国 際 会 議 報 告 及 び 今 後 の 対 応 方 針 検 討

・ I S O 国 際 会 議 の 出 席

ISO対応国内作業部会等で取りまとめた日本のコメント及び検討内容を積極的に発信するためISO国際会議へ参画した。

(1) ISO/TC149/SC1、WG13、WG14、WG15 国際会議

日時：平成29年6月19日～23日

場所：ポルトガル・アヴェイロ

議題：WG13：ISO4210（自転車の安全要求事項）及び  
ISO8098（幼児用自転車）の継続審議

WG14：ISO8090（自転車部品の名称）審議

WG15：電動アシスト自転車のISO化（EPACs）審議

(2) ISO/TC149/SC1/WG15 国際会議

日時：平成30年1月29日～2月2日（5日間）

場所：グランドホテル浜松

議題：WG15：電動アシスト自転車のISO化（EPACs）審議

・JIS/ISO事業に係る成果

〔JIS関係〕

- ・平成25年度にスタートした「JIS/ISO整合化作業」については、議論の積み重ねにより、現行JISの体系変更を伴う全体像を概ね取りまとめることができた。改正案件8件、新規案件8件、廃止案件2件の合計18件については、業界パブリックコメントを経て「JIS/ISO規格研究会」に具申し、承認を取り付けることができた。今後、所定の手続きを進めて改正案等を（一財）日本規格協会へ提出していく予定である。
- ・日本のアシスト比率測定方法を規定している「型式認定基準」の一部内容に曖昧な部分が判明したことから、その解釈・取り扱いについて自転車業界の考え方を取りまとめ、関係機関に申し入れを行った結果、平成29年10月31日付をもって「型式認定基準」が改正された。
- ・上記「型式認定基準」の改正を受け、同基準を引用しているJIS D9115（電動アシスト自転車）の改正が必要となったことから、国内体制を整えた上で、具体的改正内容を取りまとめ、業界パブリックコメントを経て、（一財）日本規格協会へ提出した。

〔ISO関係〕

- ・「ISO4210（自転車の安全要求事項）及びISO8098（幼児用自転車）の継続審議：WG13」及び「ISO8090（自転車部品の名称）：WG14」に対する国内対応体制として、「WG13/WG14対応国内作業部会」を設置した上で、具体的対応等を検討するとともに、「CEN/TC333/WG8」の動向などの海外情報については、シマノヨーロッパ等を通じて積極的に情報収集に努めているところ。
- ・日本が新規提案し、CV（コンビナー）及びPL（プロジェクトリーダー）を引

き受け主導的立場でドラフト策定を進めている「ISO8090（自転車部品の名称）：WG14」については、消費者と密接に関係している量販店、小売店からの参画を得て「WG14用語分科会」を立ち上げ、国内意見を集約するとともに、海外からのコメントの精査・確認作業を実施した。

- ・日本が新規提案し、CV（コンビナー）及びPL（プロジェクトリーダー）を引き受け主導的立場でドラフト策定を進めている「電動アシスト自転車ISO化：WG15」に対する国内対応体制として「WG15対応国内作業部会」及び「電気分科会」、「機械分科会」を設置・開催しオールジャパンの体制で積極的に取り組んでいる。
- ・1月29日～2月2日の5日間、浜松で開催した「WG15国際会議」は、合計10カ国、総勢51名（海外：33名、国内：18名）の参加者を得て、各国からのコメントについて大変闊達な議論がなされたが、会議前のロビー活動が功を奏し、日本の思惑通り概ね各国の実情に適した内容で規格案を取りまとめることができた。

#### ・技術研究所の業務

##### 〔JIS関係〕

技術研究所は「自転車JIS原案作成団体」の事務局機能を担っており、JIS改正案の素案（たたき台）の策定については、関係メーカー等の協力を得て、各種検証試験等を実施の上、得られた基礎データを分析・解析して改正作業に取り組むほか、関係機関との調整、業界有識者で構成する会議を開催して改正案の取りまとめを行うとともに、ホームページを通じて業界に広くパブリックコメントを募集するなど、自転車JIS改正等に関わる一連の作業を実施している。

一方、自転車に関わる製品事故等に対しては、現行JISの妥当性について検証試験を行うなど、物づくりの指針であるJISの見直し作業等について業界を主導する立場で実施している。

他方、昨今、製品や技術のグローバル化に伴い、国際標準（ISO）と各国規格の整合化が進められていく中で、業界有識者で構成する「JIS/ISO整合化作業部会」を設置・開催し、現行JISの体系変更を伴う全体像を概ね取りまとめることができた。

##### 〔ISO関係〕

技術研究所は、「ISO/TC149（自転車）/SC1」国内審議団体の事務局機能を担っており、自転車ISOの日本における窓口業務として、ISOからの各種情報は必要に応じて迅速に業界関係者等に周知するほか、ISOからの提案については、業界団体及び関係機関と協議の上、必要な国内対応体制（WG作業部会）を立ち上げて具体的対応方針を検討するなど、自転車業界を主導する立場で事業を推進している。

また、国内向け技術サポートとして、日本からISOに対して提案する案件の

検証試験等を技術研究所で実施して、バックデータを積み上げて提案内容の信頼性を高める体制を整えたほか、策定された改正案については、業界関係者が判りやすいように他規格（JIS、ENなど）との対比表を作成して広く周知するなど、きめ細やかな対応体制を構築している。

## ・ JIS / ISO事業の効果

### 〔 JIS関係 〕

自転車JIS原案作成団体として、技術研究所が中心となって、関係省庁及び関連団体、製造事業者等と一致協力して、物づくりの指針であるJISの見直し作業等を主導的立場で実施することにより、国内製品の品質向上に資するとともに、消費者の安全性確保を図ることが期待できる。

### 〔 ISO関係 〕

日本からの新規提案である「ISO 8090（自転車部品の名称）：WG14」及び「電動アシスト自転車ISO化：WG15」については、日本がCV（コンビナー）及びPL（プロジェクトリーダー）を引き受けた上で、関係省庁及び関連団体、製造事業者等が一致協力してオールジャパンの体制で、主導的にドラフト策定を推進するなど、国際的な課題に積極的な役割を果たしている。

また、浜松で開催した「WG15国際会議」においては、バックデータを積み上げて説明を尽くした提案内容の信頼性の高さが実証されるとともに、日本主導の基準策定スキルが国際的にも認知され、高い評価を得ることとなった。

一方、日本国内においては、ISOに関する動向・情報などグローバルな情報を速やかに業界に対して提供することで、国内製造事業者が輸出する際に不利益を被らないような対応体制がより強固になった。

以 上